

教育についてのビジネスモデルの一考察 ～教授法の観点から～

結城 篤朗(早稲田大学 教育学部)

電子通信情報学会
SWIM研究会
2014年 5月23日(金)
SWIM2014-7 16:30-16:55

目次

1. 序論
 2. 1. 背景
 2. 2. モチベーション
2. 関連研究
3. 提案手法
4. まとめ

1. 序論

2. 1. 背景

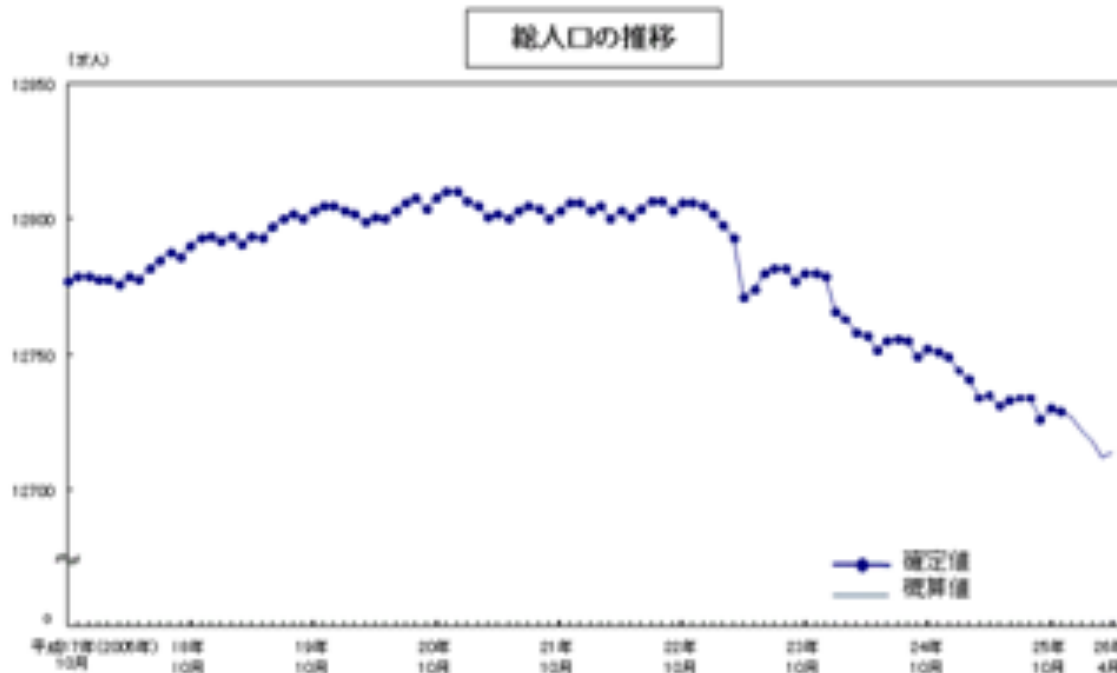
1. 現代では、高校から大学の教育へ移る際に受験に必要な知識を得なければならない。このために多くの生徒が高校の学習の補助として予備校などで学ぶ傾向がある。一般的に、学校の指導形態として、一斉指導や個別指導などが用意されている。

2. また、教育方法も時代や社会の変遷に伴って変化している。こうした中で、ICTを教育の場にも取り入れた授業として、2012年に登場したMOOCsと呼ばれる大規模公開オンライン講座のスタートが増加してきている。

2. 2. モチベーション

1. 教育の目的に合った内容を生徒へ効果的に習得させるためには、学習目的達成のための計画立案や具体的な指導の方法の決定が必要である。

2. 日本では少子化が進み、下記データが示すように、将来的には日本に於ける高等教育への受験人口は減少することが予測されている。この為、MOOCsのような世界的大規模な公開オンライン講座が求められる。MOOCsの教育法を考察するとともに、このような講座が収支上で運営して行けるビジネスモデルを提案する。



日本の人口推計(総務省統計局)
平成26年4月 報

2. 関連研究

(1-1)一斉, 小集団, 個別指導の研究

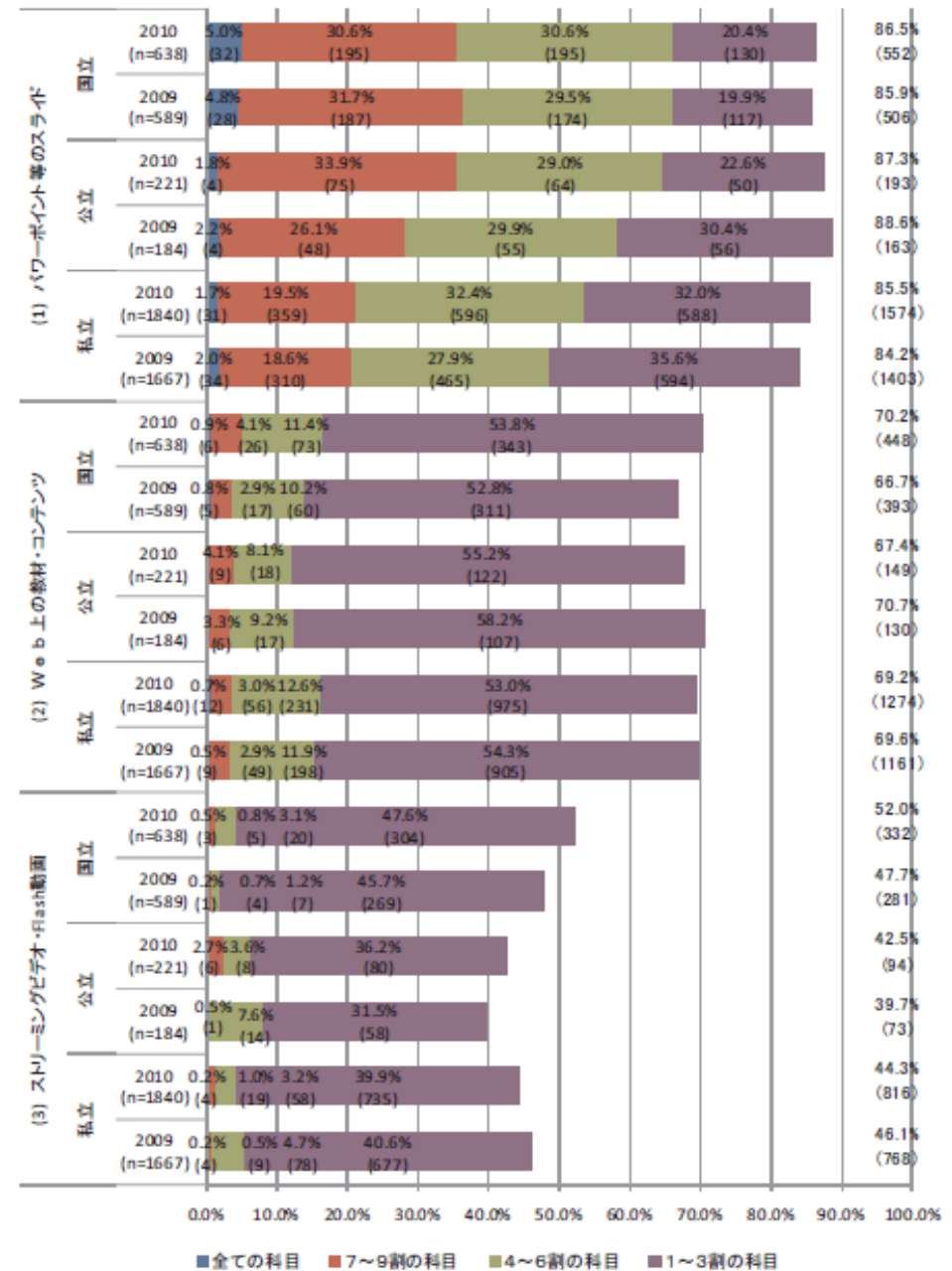
	長所	短所
一斉指導	一人の教師が多数人の生徒に同一内容を効率よく同時に指導できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒に学習がいきわたるように教師からの積極的な働きかけが必要となる。 ・生徒の学習期間が限定されている場合は試行錯誤が許されない。 ・学習指導過程を時間的に合理的・効率的に組むことが必要となる。
小集団指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的で積極的な学習活動が期待できる。 ・集団のもつ心理的圧迫感が一斉指導と比べ少ない。 ・一人ひとりの発言や行動が多くなる。 ・相互に協力し助け合って学習する経験が増え, 社会性を育成することができる。 ・集団の意見や考えの確認や補足・対立による思考の深化で, より高い思考の発生が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本来1人ひとりの生徒に起こる変化である学習には対応できない。
個別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の主体的な活動であるべき本来の学習に対し, 個々人の特性に適した内容や方法で学習できる。 ・それぞれ異なった特性を持つ個別的な存在である生徒に個々に対応できる。 ・能力・学力・性格・興味・学習速度などの個人差を考慮した有効な指導が可能である。 ・生徒一人一人の学習の成功が期待できる。 ・個人の学習への強い動機が期待できる。 ・学習指導の題材には, 集団的な形態をとらなくても個別に学べる内容が多い。 ・読み書きや計算の技能などは個別の学習によって習得が可能である。 ・読み書きや計算の技能などは個人の学習能力差が出やすいが, それに個別対応が可能となる。 ・学習活動本質, および, 学習内容の性格から個別指導は有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互に協力し助け合って学習する経験が少ないため, 社会性を育成することは難しい。

(1-2) 学習活動に不可欠な原理の研究

	内容
目的化の原理	<ul style="list-style-type: none"> ・目的のない活動は盲目的で効果が生まれない。 ・教師や生徒は教育の目的や学習の目標を明確に意識していなければならない。教育の目的や学習の目標が不明確であると、時間や労力が無駄になったり、学習の効率が落ちたりする。 ・目標を明示することで注意が集中し、活動が明確で積極的なものとなる。
自発化の原理	<ul style="list-style-type: none"> ・教育は生徒の内部的発展の助成のためのものであり、学習指導は生徒が自発的に活動するように導かれなければならない。 ・生徒が強制されたり受け身的では、主体的な学習は成立しない。 ・生徒の自発的活動を前提として、教師の指導がそれに融合することで望ましい学習が実現できる。
行動化の原理	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の活発な活動は、認識を深いものにし、人間の諸能力が多面的に開発・育成される可能性を高める。 ・「為すことによって学ぶ」ことで、教師主導の観念的・注人的な学習に対し、生徒自身の経験から生じる心身をあげた全我的な学習が期待できる。
個別化の原理	<ul style="list-style-type: none"> ・1人ひとりの生徒は代替不可能な個別的な存在であり、個々人それぞれの特徴を持っている。 ・生徒の個人差に応じ個性の伸長を図ることは、教育の重要な課題である。 ・本来学習は個別に成立するので、学習指導の方法も生徒の個人的事情に即した取り扱いが十分に考慮されなければならない。
集団化の原理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差や個性が普遍化し社会化されることによって、社会が成立する。 ・真に個性的な人間になることと真に社会的な人間になることは、究極において1つのことである。 ・有為な社会人になるためには、信頼・協力・互助などの社会性を身につけなければならない。 ・社会性の育成方法は、集団の中での自己啓発によって深まり豊かになる。

(2) ITCを利用した教育の研究

- ・2004年には10%, 2009年に39%と順調に増加してきている。
- ・e-ラーニング教材や各種教育プログラムが組み込まれてきた。



http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/06/16/1307266_5.pdf

2014/5/8 参照

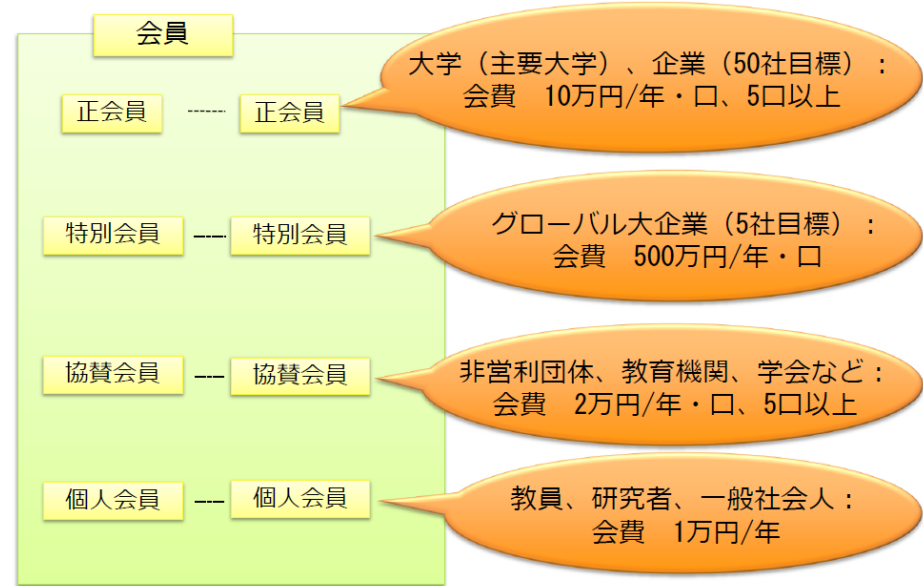
【授業中】における ICT ツールの利用状況

(3)大規模公開オンライン講座の研究

・2012年にMOOCsと呼ばれる大規模公開オンライン講座のスタート

- 1) 新しいオープン教育リソースの1つ
- 2) オープン教育の新たなモデル
- 3) 高等教育の新たなモデル

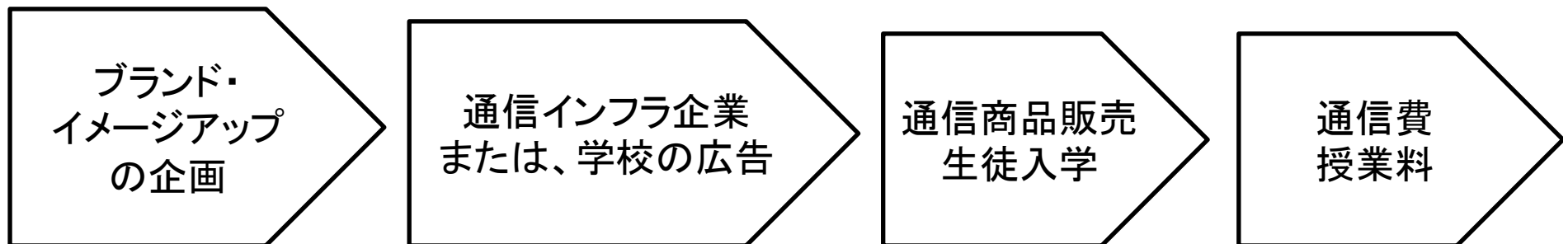
非営利団体の
JMOCs
5年間の公的助



3. 提案手法

本提案のビジネスモデル概要

- ①学校とICTインフラ企業が一体でビジネスを行う
- ②バリューを生み出す原材料は、学校やICTインフラ企業のブランド・イメージ
- ③結果として、学校への入学者数の増加やICT商品の販売の増加に繋がる。そして、コストの回収、および、運営費は増加した授業料やICT機器販売費、通信費から得る。



5. まとめ

本論文では、授業の中における学習集団の組織の仕方に視点を置いた分類から、主に、一斉指導、小集団指導、および、個別指導の長所・短所をまとめた。こうした、教授法の観点からは、必ずしも、一つの指導方法で学習活動に必要な原理を満たせるものではないことが分かった。

こうした中で、時代や社会の変遷に伴った変化として現れたMOOCsでは、グローバルな大規模一斉指導でありながら、「掲示板連絡」や「相互採点」などによる小集団指導の側面も持ち合わせている。更に、同分野に興味がある何例差の大きい生徒が分布する可能性は高く、個人同士が上手く作用すれば、個別指導を受ける環境が生まれる可能性は高い。

指導の短所と長所をカバーできる質の高い教育を行うことが可能となる可能性を秘めたMOOCsではあるが、バリューを生まないまま運営し続けることは難しい。教育法の理想とビジネスの両立を目指しMOOCsを例としたビジネスモデルに於ける、バリューチェーンの考察を行った。

今後は、より好ましい教育の質の追求とそれを支えるビジネスモデルの実現を目指していきたい。

ご清聴ありがとうございました !!!